

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	01	03	104080	特別支援事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-2	学校教育の充実			
	施策	3	特別支援体制の充実			
目的	授業中に特別な支援を必要とする児童生徒に対する生活・学習支援や、不登校・不登校傾向にある児童生徒への登校支援を行う。					
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する障がいを持つ児童生徒 ・不登校（傾向）にある児童生徒 ・子どもに悩みを持つ保護者 					
意図	一人一人の児童生徒が、生き生きと学校生活を送ることができる。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<p>○ふれあい共育推進 通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒を支援するために推進員を配置【45人配置】</p> <p>○特別支援体制の推進 障がいのある児童生徒への教育支援体制の推進</p> <p>○学校適応支援 問題を抱える児童生徒及び保護者への教育相談や特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導等のために、教育相談員及び生徒支援員を配置【教育相談員5名、生徒支援員7名】</p> <p>○ことばの巡回指導 ことばの巡回指導員を4名配置し、ことばの教室設置校以外の13校全てを巡回し、ことばの指導を行う。</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
① 相談員対応学校数	校	計画		15	15	
		実績		8	11	
② 巡回相談回数	回	計画		400	400	
		実績		367	406	
③ ふれあい共育推進員配置数	人	計画		43	43	
		実績		46	45	
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
① 不登校児童出現率（小学校）	%	目標		0.15	0.26	
		実績		0.31	0.25	
② 不登校生徒出現率（中学校）	%	目標		1.43	1.92	
		実績		2.01	2.08	
③ ふれあい共育推進員配置率	%	目標		100.00	100.00	
		実績		96.40	100.00	
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
<p>目標値は県の不登校出現率と本市の不登校出現率の現状から設定した。教育相談員や生徒支援員は、家庭と学校をつなぐ細やかな関わりによって不登校児童生徒出現率の減少に大きく貢献している。今後も連携をとって課題解決に取り組んでいく。</p> <p>ふれあい共育推進員は、市内各小中学校からの配置の要望に沿って100%の設置率となった。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	児童生徒の生活面の安定を図り、該当する児童生徒だけでなく周りのすべての児童生徒が落ち着いた生活をし、生き生きとした学校生活を送るために必要な事業である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	○ 妥当でない	
	成果の向上余地	・ふれあい共育推進員の研修会の実施による資質向上及び担任等との密な連携により更なる効果が期待できる。 ・学校と教育相談員、生徒支援員の連携及び各関係機関との協力により複雑化する不登校の要因の一つでも多く解決していくことが可能である。
	○ 向上余地がある	
効率性	向上余地がない	
	事業費・人件費の削減余地	一人一人の対応方法や対応時間が違い、機械的に事務量を減らすことはできない。現在も工夫しながら最小限の人数で対応していることから削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
公平性	人件費の削減余地がある	
	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	あらゆる児童生徒に義務教育の機会を与えるために実施している事業であるので適正である。
○ 受益機会の見直し余地がある		
○ 費用負担の見直し余地がある		
総合評価 …上記評価結果の総括		
<p>特別な支援が必要な児童生徒の増加や不登校傾向のある児童生徒の要因等の複雑化により、この事業の継続・発展要望が学校等から出されている。</p> <p>支援により児童生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう、学校や関係機関を連携を取りながら課題解決に努めていく。</p>		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 教育部 課名 小中学校課 担当係長 八重畑 亘 内線 9-30-362

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	104080	特別支援事業

単位：千円

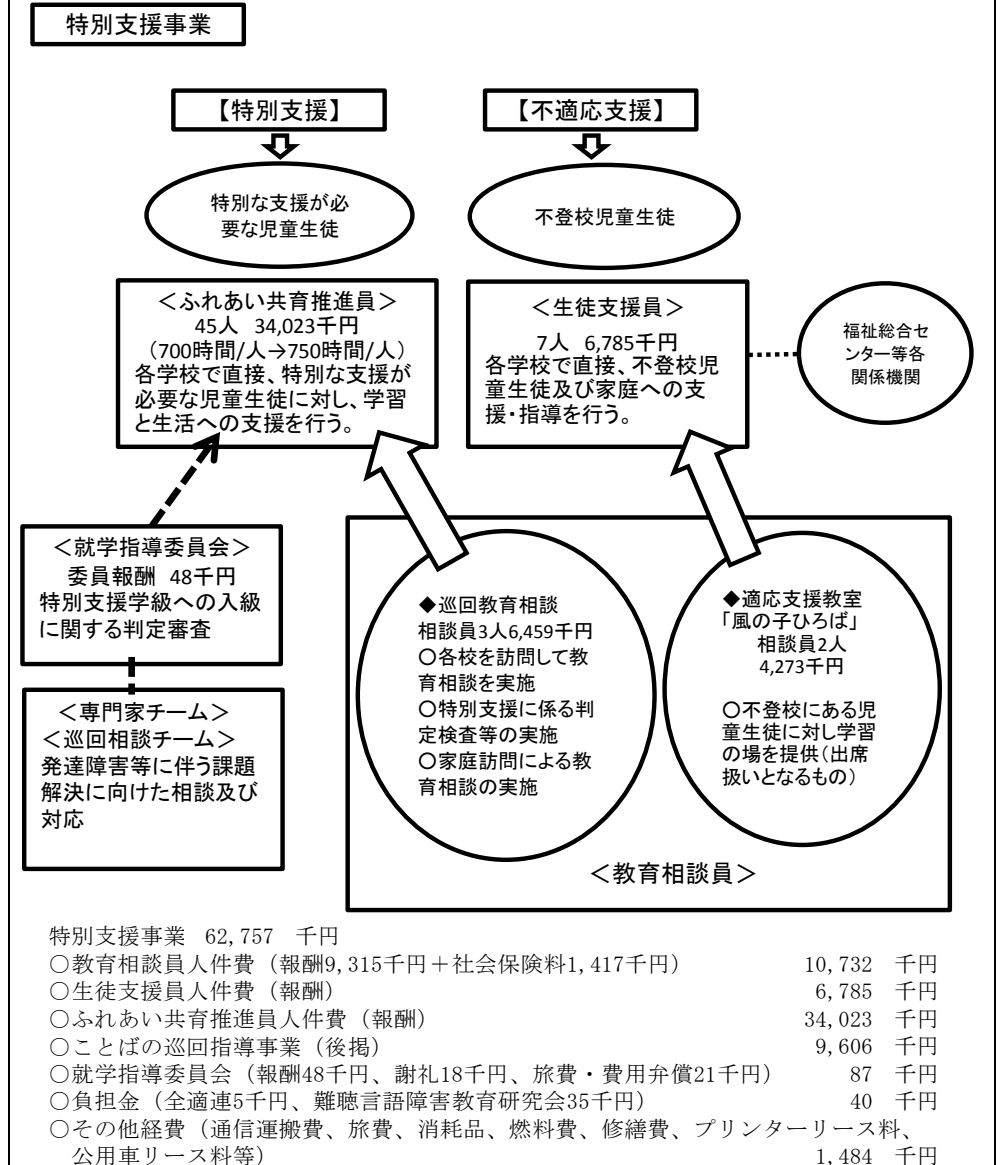
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		60,541	62,757		2,216
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他	19,173			△ 19,173
	一般財源	41,368	62,757		21,389

※特定財源の内訳

--	--

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
部重点施策における目標			
特別支援体制を充実する			
事業開始の背景・経緯			
学校では対応しきれない不登校や問題を抱える幼児児童生徒及び発達障害のある幼児児童生徒への対応を支援し、すべての幼児児童生徒が生き生きとした学校生活を送れるよう、この事業を開始した。			
事業概要			
○ふれあい共育推進 通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒を支援するために推進員を配置【45人配置】			
○特別支援体制の推進 障がいのある児童生徒への教育支援体制の推進			
○学校適応支援 問題を抱える児童生徒及び保護者への教育相談や特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導等のために、教育相談員及び生徒支援員を配置【教育相談員5名、生徒支援員7名】			
○ことばの巡回指導 ことばの巡回指導員を4名配置し、ことばの教室設置校以外の13校全てを巡回し、ことばの指導を行う。			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
○特別な支援が必要な児童生徒の増加及び不登校傾向にある児童生徒の抱える悩みの複雑化などから、この事業の継続・発展要望が学校等から多く出されている。			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



平成 29 年度事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	104080	特別支援事業

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

ことばの巡回指導事業 9,606千円

【目的】

ことばの教室設置校以外の学校の児童が、自校でことばの指導を受けることができる体制を整備する。

ことばの教室設置校を拠点にして

ことばの教室設置校

【ことばの教室設置校 5校】

花巻小学校(2教室)、若葉小学校、石鳥谷小学校
大迫小学校、東和小学校

<ことばの巡回指導員>

・ことばの教室設置校以外の小学校を巡回して、ことばの指導を行う(巡回指導希望者に対し)。
・ことばの指導の状況について、ことばの教室設置校のことばの教室担当教諭に報告するとともに、指導の指示を受ける。

← 指示
--- 報告 →

<ことばの教室担当教諭>

・ことばの教室設置校区の小学校のことばの検査を行う。
・ことばの教室設置校在籍児童のことばの指導を行う。
・ことばの教室設置校以外の学校に在籍する児童で、ことばの教室設置校での指導を希望する児童の指導を行う。
・ことばの巡回指導を希望する児童の指導計画を立案し、ことばの巡回指導員へ指導の指示を出す。

(公用車で移動)

巡回指導

ことばの教室設置校以外の小学校

ことばの検査実施

【巡回指導対象校(ことばの教室設置校以外の小学校) 13校】

石鳥谷小学校区・大迫小学校区(新堀小・八幡小・八重畑小、内川目小、亀ヶ森小) 1名
花巻小学校区(南城小、湯本小、矢沢小、宮野目小) 2名
若葉小学校区(湯口小、太田小、笹間第一小、笹間第二小) 1名

* 桜台小学校には、花巻小学校のことばの教室担当教諭が巡回指導を行う。

<経費> 9,606千円

・巡回指導員人件費	8,603 千円	報酬7,501,735円+社会保険料1,100,711円
・公用車	915 千円	リース料 829,440円/5台、燃料 85,443円/5台
・消耗品、備品	88 千円	消耗品 88,232円